

柳宗悦著「民藝とは何か」講談社学術文庫、講談社 2006年9月10日刊を読む

民藝とは何か

稀有なものは公道ではないはずですが。あの誰でも歩む大通りこそすべての者を迎えて、都にと導くのです。稀有なものにも特殊な美しさは見えます。しかしそれは本道ほんどうの美ではないのです。精細とか華麗とかの美はあるでしょう。しかしそれは美の極致ではないのです。民藝こそは美の公道なのです。この素朴な民器にこそ最も広い工藝の本道があるのです。貴族的なものは優れている場合でもどこか弱く、実用的な民器は貧しい場合でもどこかに健かさが見えます。そこには活ける生命の美が現れています。

あの平凡な世界、普通の世界、多数の世界、公の世界、誰も独占することのない共有のその世界、かかるものに美が宿るとは幸福な報せしらではないでしょうか。否、かかる世界にのみ高い工藝の美が現れるとは、偉大な一つの福音ではないでしょうか。平凡への肯定、否、肯定のみされる平凡。私は民藝品に潜む美に、新しい一真理の顕現を感じるのです。

[コメント]

普通の世界の中にこそ美が宿るという「民藝」の考え方は、日々の生活を大切にし、その中に価値を見出すことができるという意味で素晴らしいと私は思う。

- 2010年6月30日 林明夫記 -